



目次

【巻頭言】	新理事長会のご挨拶	富永 安治	1
【事業報告】	平成22年度(第6期)事業報告	富永 安治	2
	平成23年度(第7期)事業計画	富永 安治	4
【活動報告】	平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業	栗野 順二郎	5
	1. 航空機産業参入支援事業	栗野 順二郎	6
	2. 環境・エネルギー産業参入支援事業	村岡 隆	8
	3. 健康・介護産業参入支援事業	近藤 穆	9
【活動報告】	和歌山「S社」支援アドバイザー活動報告	栗野 順二郎	10

「平成23年度 基本方針」

理事長 富永 安治

1. 改革と革新
2. 業容の拡大
3. 公的機関との協調

(巻頭言)

理事長交代のご挨拶と平成23年度の基本方針

近畿産業技術クラスター協同組合
理事長 富永 安治



関係の皆さんには大変お世話になり、誠に有り難うございます。

東日本大震災が発生し、同時に福島原発の事故が起き、大変な事態になっています。とにかく原子炉内の放射能を遮断しなければ何もできないわけで、ここは現場に集まる内外の専門家の英知と行動にすべてを任せるしかありません。震災で犠牲になられた皆様には心からお悔やみ申し上げると同時に、避難をされている皆様には、心からお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、この度、寺山理事長が健康上の理由で、第6期通常総会を最後に、理事長を退任されることになり、平成23年度は、私、富永が理事長に選任され、就任いたしましたので、略儀ながら、一言ご挨拶申し上げます。

近畿産業技術クラスター協同組合(KSTC)は、組合理念に沿って、中小・ベンチャー企業を元気にし、『地域社会の発展に貢献したい』をモットーに、平成22年度は(独)中小企業基盤整備機構(中小機構)の「川上・川下ネットワーク構築事業」、吹田市の「ふるさと雇用再生基金事業(ビジネスコーディネート事業)」、(財)わかやま産業振興財団の「わかやまものづくり支援アドバイザー事業」等の事業に組合員全員で取り組んで参りました。

次に、平成23年度の基本方針は、前年度と同じ方針にしました。

1. 改革と革新 2. 業容の拡大 3. 公的機関との協調

この度の大震災で、日本の中小企業の打撃は大きく、世界の自動車産業に与える影響は30%ダウンになるといわれています。大震災及び福島原発の事故は、世界のあらゆる産業界に大きな課題を提供しました。

この中であって、我々KSTCは、中小企業を取り巻く産業界の流れをよく認識して、方針を立て、中小企業を支援しなければ、その効果を発揮できません。

本年度も、昨年度と同様に、成長が見込まれる下記の3分野を中心に取り組みを進めていきたいと思っております。

航空機産業参入支援事業

環境・エネルギー産業参入支援事業

健康・介護産業参入支援事業

誠に微力ではございますが、近畿経済産業局、中小機構、中央会、大阪商工会議所、わかやま産業振興財団ほか、関係各位の皆様方のご支援とご協力をいただきながら中小・ベンチャー企業を元気にする組合として、更なる努力をして参ります。

寺山浩三前理事長同様、格別のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年度(第6期)事業報告

平成22年 1月 1日 ~ 平成22年12月31日

本年度は、大阪府中小企業団体中央会のおよそ1000組合の中から優良組合(20組合)に選ばれ、第52回中小企業団体大阪大会に於いて、岡本会長から表彰された。

近畿産業技術クラスター協同組合として、積極的に取り組んだ事業としては、新規事業として、(独)中小企業基盤整備機構(中小機構)の「平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業」、継続事業として、吹田市の「ふるさと雇用再生基金事業(ビジネスコーディネーター派遣事業)」、(財)わかやま産業振興財団の「わかやまものづくり支援アドバイザー事業」等の事業である

1. 事業年度における主要な事業内容・当該事業年度における事業の経過及びその成果

() 事業内容と経過の概要

「平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業」

中小機構が平成18年から推進をしている事業で、今年初めて公募をして、受託した。

事業内容は、航空機産業、環境・エネルギー産業、健康・介護産業に於ける「川上・川下ネットワーク構築事業」で、近畿経済産業局が主宰する「関西国際航空機市場参入支援事業」そして現在の時流である「地球温暖化対策」、「国民の健康・介護問題」に呼応して、航空機産業、環境・エネルギー産業、健康・介護産業の3分野の参入を希望する川上企業(中小企業)と川上企業(大企業)とが、商談会・交流会及び部会・研究会等を実施して、川上・川下ネットワークを構築し、マッチングに結び付けるものである。

「ふるさと雇用再生基金事業(ビジネスコーディネーター派遣事業)」

吹田市の委託事業で、事業内容としては吹田市から高い評価を得ており、今年に従業員の活動拠点を江坂に移し、積極的な企業情報収集活動を行って、吹田市在籍の企業の経営課題等の取り組みを行なった。

吹田市産業労働にぎわい部・吹田商工会議所主催の勉強会を開催し、「プリントド・エレクトロニクス」(8/25)、「スマートグリッド(省エネ)」(9/17)、「産業ロボットから介護ロボットへ～現状と課題～」(10/19)のテーマで3回の勉強会を行った。これが、事業の創造や製造に反映して、吹田市の産業振興の一助となれば幸いである。

(財)わかやま産業振興財団の「わかやまものづくり支援アドバイザー事業」等、今年度も(財)わかやま産業振興財団から「ものづくり支援アドバイザー事業」の依頼があり、これを受託(今年で5年の実績)して、中小企業の経営支援を行った。これらの企業に対する企業コンサルティング活動を通じて、他の支援機関からの依頼があり、受託した。

() 事業の成果

「平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業

* 航空機産業参入支援事業

セミナー・勉強会・工場見学等を14回行って、183社、259名が参加。

研究会テーマ数が3件、マッチング数が2件であった。

* 環境・エネルギー産業参入支援事業

セミナー・勉強会・現地指導会等を13回行って、107社、113名が参加。

研究会テーマ数が1件、マッチング数が3件であった。

* 健康・介護産業参入支援事業

セミナー・勉強会・現地指導会等を12回行って、102社、105名が参加。

研究会テーマ数が2件、マッチング数が4件であった。

「ふるさと雇用再生基金事業(ビジネスコーディネーター派遣事業)」「BCプロ事業)

平成22年度はBCプロ事業を事業計画に組み入れ、吹田市からの事業委託料を売上として計上した。これにより総売上金額が1000万円を超えた。

吹田市役所のホームページを充実させて、企業情報を円滑にした。

4名の従業員も2年目に入り、市内の中小企業とのコミュニケーションが取れやすくなり、吹田市の信頼もあつく、高い評価を得ている。

「わかやまものづくり支援アドバイザー事業」等

(財)わかやま産業振興財団の委託事業は、KW工業(株)、MK工業(株)、(有)S社、

(株)K社の4社であるが、双方向連携事業展開を行って、(財)わかやま産業振興財団の以外にも、(財)神戸市産業振興財団でN社、F社、中央会で(株)M社、大阪商工会議所でNA社、AR社等の5社を単年度であるが受託をした。

2. 運営組織の状況に関する事項

1 代表理事(理事長)辞任の件

寺山浩三理事長が、体調不良のため、理事長を辞任し理事として在籍をされるため、総会後の理事会において、平成23年度の理事長を選任する。

2 新監事選任の件

原田監事より、特定非営利活動法人テクノメイトコープ監事の保田^{ほたゆきひろ}勲氏の推薦があり、総会で選任を行う。

3 辞任した役員

平成22年度に辞任された役員は、次の通りです。

副理事長	原田 和夫
監事	福島 勤
監事	井澤 佑治

3. 平成22年度 収支 (単位:千円)

(1) 収益の部	15,987
(2) 費用の部	15,394
(3) 当期純利益金額	593
(4) 出資配当金金額	62
(5) 次期繰越剰余金	518

今期は、組合創立後初めて、出資配当金を計上することができ、確実な発展の基礎が出来てきた。

(富永 安治 記)

【事業報告】

平成23年度（第7期）事業計画

平成23年 1月 1日 ~ 平成23年12月31日

企業OBの技術集団として、その豊かな経験を活かして、企業の経営、生産、販売、技術、製品開発など幅広く支援を行っていますが、本年度も、昨年度と同様に、成長を見込まれる下記の3分野を中心に取組みを進めていきたい。

航空機産業参入支援事業

環境・エネルギー産業参入支援事業

健康・介護産業参入支援事業



1. 具体的には、公共の事業活動とも関連して取り組む。

(1) 戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)などに申請

昨年、(独)中小企業基盤整備機構(中小機構)の「平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業」に採択されて、取り組んできました。それにより、具体化した案件もあり、それを主体に該当企業とより深く連携して、企業の発展に寄与したい。

その取り組みとして戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)などに申請し、企業の要望を具体的に実現の方向へ推進していきたい。

昨年の上記事業の推進に当り、多くの企業との関係が出来た。それらの企業訪問を行い、シーズ、ニーズの確認とそのマッチングと共に、生産管理、販売管理、製品開発、技術開発、販路開拓、企業の収益向上などにも取り組んでいきたい。

昨年の「平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業」に、代わる事業にも挑戦し、今までに培った情報の蓄積が実のように取り組んでいきたい。

事業活動に採択されて活動するには、企業や大学などとコンソーシアムを組み、幅広くチームを組んで、地域と共に発展する事も配慮して取り組む必要がある。

(2) 吹田市の「ふるさと雇用再生基金事業 (ビジネスコーディネーター派遣事業)」

昨年と同様に、吹田市役所と連携して、取り組む。雇用の促進と共に、企業の発展を図る目的で始まって、今年で着手して3年目になる。

吹田市における企業の実体調査は今年度(～H24/3)で一区切りとなり、終了となる。

しかし多くの企業のデータが蓄積された。企業訪問も多く行い、企業のニーズもかなり明確になってきた。

今後は市役所とより一層、連携を深め、企業の蓄積データを活かすように活動し、企業発展に寄与したい。

(3)(財)わかやま産業振興財団の 「わかやまものづくり支援アドバイザー事業」等の事業

昨年と同様に、(財)わかやま産業振興財団と連携して、取り組む。(財)わかやま産業振興財団とは、数年来の連携である。和歌山の企業のより一層の発展に寄与するように、企業支援に協力していきたい。

2. 平成23年度 収支予算 (単位:千円)

(1) 収益の部	12,305
(2) 費用の部	12,291
(3) 当期純利益金額	14

3. 平成23年度 新役員

理事長(新任): 富永 安治

常務理事: 栗野 順二郎

理事: 寺山 浩三、平井 佳紀 佐藤 伸吾

監事: 原田 和夫、(新任) 保田 鞞宏

(佐藤 伸吾 記)

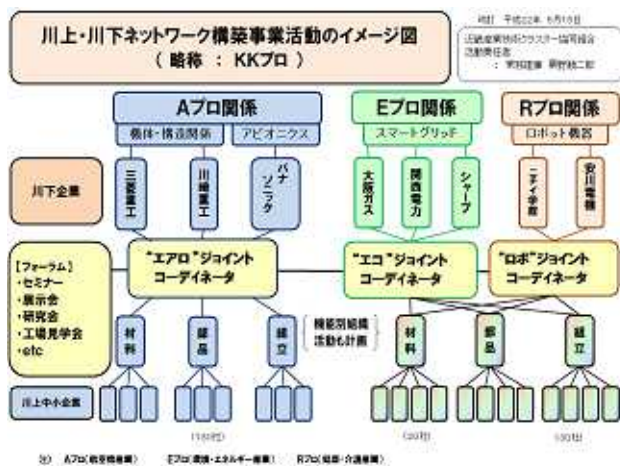
【活動報告】

『平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業』活動報告

我々は平成22年6月、中小企業基盤整備機構が公募した「平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業」(略称：KKプロ)に応募し、全国で16団体が採択され、そのうちの1団体が我々の組合である。この8か月間の活動について概要を報告する。

1. KKプロ の概要

本事業は、日本の民主党政権が掲げる 地球温暖化対策、国民の健康問題、そして近畿経済産業局が主宰する「関西国際航空機市場参入支援事業」に呼応して、我々近畿産業技術クラスター協同組合(略称：KSTC)は、航空機産業、環境・エネルギー産業、健康・介護産業の3分野にわたり、新しく参入を希望する川上中小企業と川下大企業とがお互いのシーズ、ニーズを共有できる「川上・川下ネットワーク」を構築して、中小企業を元気にし、日本経済を押し上げることを目的とする。



エアロ・ジョイントコーディネーター(AJC)、エコ・ジョイントコーディネーター(EJC)、ロボ・ジョイントコーディネーター(RJC)を介して、関係分野毎に川下企業とコーディネートできる組織化を図り、ここが中心となって、潜在的なマーケットニーズ、潜在的な技術シーズを顕在化して、川上・川下ネットワークを構築し、ビジネスマッチングに結びつけるものである。(左図参照)

そのために、セミナー、組織化、商談会・交流会、部会・研究会、現地指導会及び工場見学会などのフォーラムを通じて、川上企業と川下企業をマッチングに結びつける。

なお、この活動期間は、平成22年6月25日から平成23年2月18日までの約8か月間である。

次ページよりAプロ、Eプロ、Rプロの順でその詳細を述べる。

(粟野順二郎 記)

2. 事業内容及び実施方法

当組合(KSTC)では、航空機産業関係の取組みをA(エアロ)プロ、環境・エネルギー関係の取組みをE(エコ)プロ、健康・介護関係の取組みをR(ロボ)プロの3つの分野で活動・展開することにした。

ここ2年間の企業調査活動で知り得た川上企業は、Aプロ：180社、Eプロ：20社、Rプロ：30社である。

Aプロ：KHI明石工場見学会で



【活動報告】

『平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業』Aプロの活動報告

近畿経済産業局が主宰する『関西国際航空機市場参入支援事業』に呼応して始まった航空機産業参入支援事業がAプロである。川下企業として、航空機本体の三菱重工業(株)(MHI)、アビオニクス関係でパナソニック(株)があげられるが、これらの企業に如何にしてマッチングさせるかがAプロの活動といえる。

1.1 Aプロの事業実績

Aプロにかかわる事業実績を順次説明する。

(1) フォーラム開催実績

内部検討会；

KKプロ幹事会：Aプロを含めてKKプロとしての行事について事前に打ち合わせし準備する会議は、合計16回実施した。

Aプロ幹事会：Aプロだけの打ち合わせは、合計3回実施した。

外部イベント；

- ・川崎重工業(株)岐阜工場見学：航空機部分の組み立てや部品加工の工場を見学した。
- ・川崎重工業(株)明石工場見学：航空機エンジンの部品加工・組み立ての工場を見学した。



- ・現地指導会：MHI OBによる現地指導会を募集したところ11社の申し込みがあった。このうち8社に絞って現地指導会を実施した。
- ・Mg合金の開発をやっている会社の現地指導会で、MHI-OBからこの合金は耐熱性があり、軽量だからヘリコプターに使える

ので紹介すると提案頂いた。

- ・電動工具を製造している会社には、航空機の狭い翼内で作業するのに超軽量電動工具が必須ということで、即開発を要請された。
- ・航空機産業に参入するには、技術の厳しさ・むずかしさ・多額の投資を要するので率直悩んでいる経営者が多いことが分かった。

(2) セミナー・勉強会の開催実績

オープニングセミナーでKKプロの概要説明や、Aプロ・Eプロ・Rプロの代表的な川下企業に現状と課題をお話いただいた。

航空機産業参入支援セミナーとして3回

- ・航空機の仕組み勉強会
 - ・航空機の機体とエンジン材料及びCFRT複合材料について
 - ・航空機産業参入の実態ほか
 - ・部会・研究会&組織化検討会
- 『超環境型 新航空輸送システムへの研究開発構想』：MHI-OB野田さんの「ほら話」
- 『川下企業に航空機部品・装備品を納入するにはどうしたら良いか?』

写真はMHI-OB野田新見さん



(3) 交流会開催実績

・アビオニクス関係部品に参入
パナソニック(株)が示したニーズ(3部品)について、これまでのフォーラムに参加した企業の技術シーズと照らし合わせ、各部品3社ずつを一覧表にし、そこから最適と思われる企業をP社に選別してもらい、マッチングに向けて交流した。

(4) シーズ・ニーズ調査

・KKプロが始まる前に調べたシーズ調査資料を基に、27社を選んで企業の強み・課題・オンリーワン技術などを調べた。

・アビオニクス関連ニーズ部品・材料調査：
難燃性キャビネット成型 アルミニウム
の薄板加工(ヒートシンク用) SUS
特殊ネジ

・MHIのニーズ情報：
MHI-OBのセミナー講演の中で明らかにされた情報から 難燃性電線 難燃性成型部品他

(5) 販路開拓実績(展示会や商談会など)
実績なし

(6) ジョイントコーディネーターの配置
AJCとして、三原 炭田 富永 栗野が担当したが、途中、前2者が家庭の事情で抜かれた。富永 栗野でMHI OBやパナソニックを動かしマッチングに結び付けた。

1.2 Aプロ本事業の実施結果及び評価

(1) 成果

研究テーマ

「日本固有の超環境型新航空運輸システムへの研究開発構想」をMHI-OBの野田新見氏から引き出したこと。(右図:イラスト)

組織化テーマ

「川下企業に航空機部品・装備品を納入するにはどうしたら良いか?」についても明確にMHI-OBの野田さんから提案頂いたこと。

アビオニクス関連のマッチング2件

現地指導会で研究テーマアップが2件

1つはMg合金 2つ目は超軽量化した電

動工具の開発である。

野田さんの提案:「超環境型新航空運輸システムへの研究開発構想」イラスト

2. 私の「空飛ぶもの」の夢 ⇒ 超環境型 航空輸送システム
Super Green Air-Transport System(SGAT)

機種	全長 (m)	全高 (m)	翼幅 (m)	最大重量 (ton)	巡航速度 (km/h)	最高速度 (km)	搭載人数 (人)
G-23J	23	10	29	30	682	1,832~4,268	63~46
SGA43	15	6	19	20	550 軽空重	1,900~2,000	43
MRJ70	33	10	30	36~40	356	1,900~3,410	76

エンジン出力
800KW x 6

(2) 評価

当初のAプロの目標は、

- 1) 研究・開発テーマは 1件
- 2) マッチングは 5件と決めていた。

実績は

- 1) 研究・開発テーマは 3件
- 2) マッチングは 2件となった。

(3) 今後の取組

1) 研究・開発テーマ3件の実現に向けて「日本固有の超環境型新航空運輸システムへの研究開発構想」は内閣府関係省庁に働きかける。

Mg合金や超軽量化した電動工具の開発はサポインを指導していきたい。

2) マッチングの2件は、実現に向けてフォローしていきたい。

(栗野順二郎 記)

2. 『平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業』環境・エネルギー分野(Eプロ)の活動報告

本分野では、太陽光発電・スマートグリッドなど多岐に亘る技術・システム・製品が開発され多くは実証試験中である。その技術・製品は、電力・ガス・水供給、建築・土木、電気機器、照明、情報・制御、材料と、広範囲のシステム化と応用により達成されていく。

発展中の本分野において、川上企業の新事業・新製品開発や販路拡大を目指すネットワーク構築を図るために、H22年度は下図に示す活動を実施した。

2.1 セミナー・勉強会・見学会

川上企業が本分野の動向やニーズを知って、自己の技術・製品の可能性と方向性を探るべく、エネルギー総合工学研究所などの有識者、竹中工務店など川下・川中企業の方々を講師に迎え、セミナーや勉強会を8回開催した。本分野と健康・介護分野とは適用技術が重なることも多く、内3回は両プロ共催とした。

加えて、実証試験の概要や省エネ設備の実態を知るため、三菱電機(株)先端技術総合研究所と梅田スカイビルを見学させていただいた。

2.2 シーズ・ニーズ調査

連携している大阪商工会議所主催『MoTTto 省エネ・創エネ大阪フォーラム』、『大阪勧業展』

や川下企業主催の展示会・セミナーにメンバーを派遣すると共に、川上・川中企業訪問によるシーズ・ニーズ調査を16件実施した。

2.3 川上企業への活動支援

ジョイント・コーディネータや専門家による支援希望5社の個別シーズ調査や強み・弱みのブラッシュアップ活動支援、大阪 ESCO 協会理事による技術・製品開発指導会や交流会を実施し、具体的商談マッチングが1件成立した。

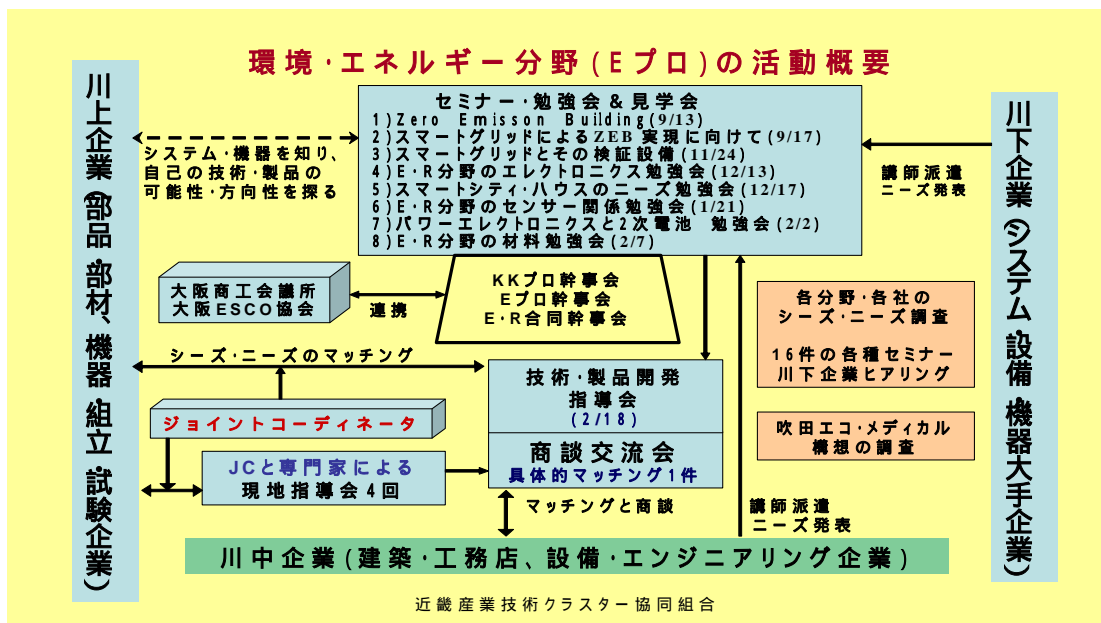
また、交流会を通じ、エコ・メディカル建材を川上企業同士が共同研究・共同開発しようという可能性が今後検討されることになった。

2.4 活動の評価と今後の期待

本分野の川下企業技術・製品はまだ実証中が多く発展途上で、秘密保持もあり具体的商談が出難く、川上企業もニーズを充分掴み切れず、自社の技術・製品のブラッシュアップ方向を探り、これから強みを発揮しようという段階には差し掛かったが、当プロとして実質活動8カ月でネットワーク構築化までには至らなかった。

東北・関東大震災の影響で、更に省エネ機運は高まると考えられ、国の施策が不明確な段階ではあるが、当プロも大阪 ESCO 協会との連携、吹田貨物ヤード跡地『エコ・メディカル構想』などを通じ、川上企業への支援とネットワーク構築への活動を継続していきたい。

(村岡 隆 記)



3. 『平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業』健康・介護福祉機器分野(Rプロ)の活動報告

65歳以上の高齢者内、約495万人(2010年9月)が介護保険で要介護・要支援の認定を受けており、多くは歩行困難・転倒など「移動困難者」の側面を併せ持っている。一方、ヘルパーなど介護者の慢性的不足及び、介護者の腰痛など肉体的苦痛(力仕事)からの解放を求める声が、施設介護現場で強く望まれている。

実際の介護作業を考えてみると、一旦座ってから移動することが多い。すなわち、ベッドに寝た姿勢(臥床) → ベッド横に座った姿勢(座位) → 車イスに移る(移乗)の中で、との間では、「抱えて起こす」作業が、との間では「脇を支えてお尻を挙げる」作業が必要であり、この作業が力仕事であり腰痛の危険性が高まることは容易に理解できる。

今回のRプロでは、こうした課題を解決すべく、介助用標準型手動車いすをベースに、移動・移乗を容易に行える機能を付加した改良開発を目的として各種活動を開始した。

Rプロ全体活動は、下記に示す通りである。

3.1 セミナー・勉強会

本事業の川下企業は、特養などの施設介護であると同時に、車イスなど介護福祉機器製造メーカーであるので、これらの施設あるいは、介護福祉機器・ロボット製造メーカー、またはボランティアで介護活動の体験がある有識者

から、生のニーズを聞かせていただく機会を設けた。また、介護福祉機器の素材として金属及び樹脂が考えられるので、製造方法・特性など、更にセンサの原理・特徴・用途など基礎的な勉強会なども実施した。

3.2 シーズ調査

共同体を結成してもものづくりを進めるにはシーズ企業の調査も重要であり、金属・樹脂・金型・板金・切削・抗菌・表面処理・熱処理・臭気やにおい対策などの技術を保有する川上企業を訪問して27件の状況調査を実施した。

3.3 川上企業への活動支援

ジョイント・コーディネータや専門家による支援希望4社と交流会を実施し、具体的商談マッチングが3件成立した。

3.4 活動の評価と今後の期待

ニーズ側代表者として車イスなど介護福祉機器製造メーカー、介護施設、介護者の教育機関、シーズ側である各種ものづくり企業、圧力センサなどを研究開発されている大学と企業、それに当組合などを含んだ介護福祉機器開発ネットワークをなんとか構築することが出来た。今後はこのコンソーシアムを効率よく作動させ、「コンパクト・簡単操作・メンテナンスフリー・低コスト」をコンセプトとする介護福祉機器の実用化にまい進する所存である。

(近藤 穆 記)

健康・介護分野(Rプロ)の活動

近畿産業技術クラスター協同組合



【活動報告】

わかやま「S社」支援アドバイザー活動報告

昨年度、8月に「財団法人わかやま産業振興財団」より、平成22年度ものづくり支援アドバイザー事業として、S社の『高級ボタンの生産性向上』活動を実施したので、これまでの活動経過を報告する。

1. 有限会社 S社 の概要

事業概要：高級ボタンの製造
従業員数：約18名
所在地：和歌山県西牟婁郡

2. 課題内容

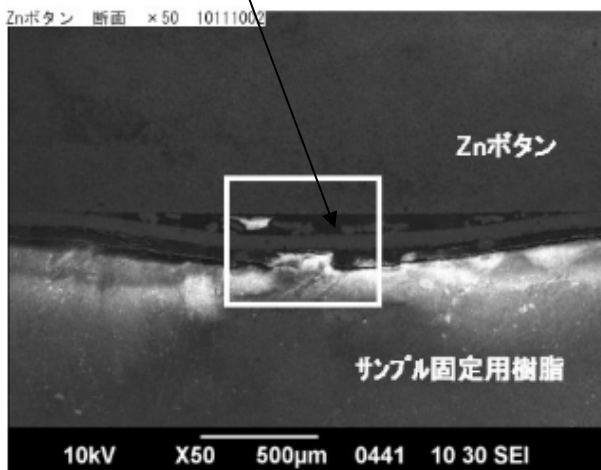
長年色々な生産に対する課題が出て、その都度課題対応してきたが、明確な生産性向上には至らなかった。

今回は不良原因を調査し、生産工程を見直すことにより、高級ボタン生産性向上への対策を打つことにした。

3. 現状調査

1) 課題原因の調査

Cuメッキのフクレの原因は？



水の残留にあるようだと推定

2) 現状製造工程条件の見直し

Znダイキャスト

バレル処理 → 水分

熱処理 → 水分

各種Cuメッキ → 水分

脱水乾燥 → 水分

下塗り・本塗り

乾燥

各種メッキ工程 と 脱水乾燥工程



4. 対策

- ・メッキ後の脱水乾燥増強する。
- ・箱型乾燥機の乾燥徹底する。
- ・最終メッキ工程の安定化する。
- ・洗浄籠の金網の樹脂コーティング補強する。

5. 成果とまとめ

- ・課題原因は水の残留にあった。
- ・生産性は、120%の向上となり、生産性向上金額は、約1000万円/年

6. 今後の展開

- ・対策を他品種に展開する！
- ・その他の課題解決を！

特に、きめ細かい工程条件を管理する。

(平井・栗野 記)

近畿産業技術クラスター協同組合 (テラテックコンサルタント)

〒564-0032

大阪府吹田市内本町2 - 7 - 1 2

TEL : (06) 6317-2439

FAX : (06) 6317-0579

Eメール : info@kstc.jp

URL : www.kstc.jp (新ホームページ)



新ホームページが完成しました。ぜひご覧ください。

アクセス

JR 吹田駅下車 南東の内本町コミュニティーセンターを南へ(徒歩 10分)

阪急吹田駅下車 メイン通路を南東へ、トヨタ自動車販売店を東北へ(徒歩 15分)





寺山南楊氏作品
南北墨画会常任理事

近畿産業技術クラスター協同組合
テラテックコンサルタント
発行日 : 平成23年4月25日
発行者 : 富永 安治
編集委員 : 栗野 順二郎 近藤 穆
 大久保 雅巳 宮本方人
校正委員 : 平井 佳紀